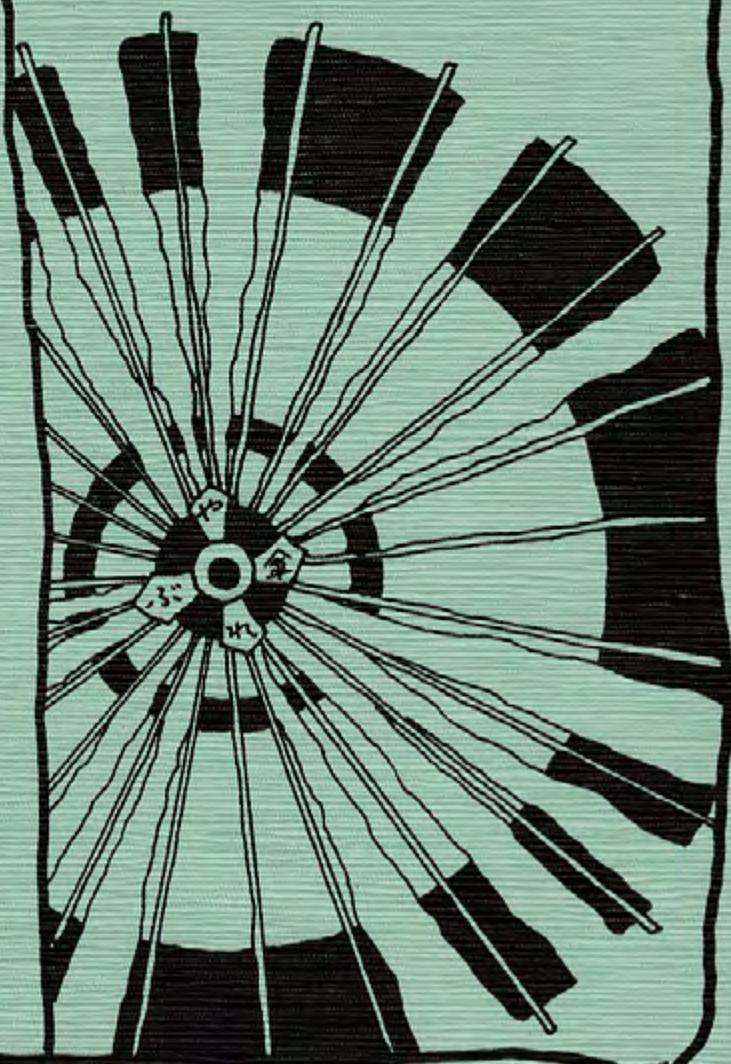


やぶれ傘



一〇六号

二〇一九年二月

エンジンを切つて舟くる雪もよひ 根橋宏次

冬の日がブロック塀の穴を抜け 大島英昭

霜柱そろそろ育ちきる時刻 きくちきみえ

蕎麦園に庭師来てゐる六日かな 廣瀬雅男

枯れ芝へ雀ぼとりと下りて昼 藤井美晴

星飛ぶと云ふから起きてゐる霜夜 青谷小枝

綿虫飛ぶチェックアウトをして出れば 丑久保勲

老人が葱をつかんで通りけり 白石正躬

教室は午後の授業に籠の玉 渡邊孝彦

樽酒の量り売り買ふ小晦日 瀬島酒望

寒灯ホットミルクを飲めば膜 小山よる

五重塔過ぎ松過ぎの朱印所へ 安藤久美子

凍滝へ百の階段一歩づつ 天野美登里

新雪にシユプール描くパラレルで 有賀昌子

空つぼのベンチに銀杏落葉かな 秋山信行

抄 集 句 傘 紀 大 崎 夫 選 ぶ れ や

カフェにひとり平成最後の大晦日 松村光典

たけなはの鍋に白菜放り込み 高橋 均

束の間の日差しにとべり冬の蝶 中島和子

暮れの街喜捨する人を撫でる僧 橋本美代

昆布巻は自慢のひとつ節料理 本郷美代子

日も欲しや風も欲しやと干菜吊る 武藤節子

境内に持て成しテント水仙花 森 美佐子

屠蘇回す下戸も一座に加はりて 浅嶋 肇

窓覆ふ板子の横の懸け大根 石原健二

ライトバン後部を開けて飾売り 大野芳久

初詣小さき社へ犬連れて 神山市実

箸紙に名を書くことも無くなりて 木村瑞枝

晴天や空の半分いわし雲 忽那みさ子

神木の櫛に触るる初詣 齋藤朋子

蕎麦を干す均しの音の聞こえ来る 眞田忠雄

初句集装丁凝りて冬ぬくし
柴崎和夫
医者いらずと言はれて林檎貰ひけり
自販機のコーヒー「ゴトン」冬隣
娘らの机捨てけり十二月
数へ日の圭角ふたつニツキ飴
大年に蓮買ひ忘れ戻りけり
黒豆の長ち老ろ喜ぎが好きで笑はれる

篠崎志津子

ライトアップに桜紅葉の色の濃く
でこぼこの石の組み方石露の花
マスクしてメガネのくもるバスの中
包丁に体重のせて餅を切る
フェルメール展の上野の森で年迎ふ
紫の靴紐きつく枯野原
周りみな家が建ちゐる冬田かな

鈴木昌子

夕刊をくばるバイクに暮れやすし
冬の夜のゴジラの光る歌舞伎町
街角にサンタの帽子落ちてゐる
雲の間をぬつて初日の出でにけり
一月の部屋より臨む丸き月
ペット屋の布にくるまるかじけ猫
梅咲いてふとん干す人たたく人

高橋均

足早に信号渡る枯葉道
勘定書裏にしてあり牛鍋屋
学童の列乱れけり枇杷の花
古雑誌読みふけりたり煤払ひ
さかづきに浮きし金粉お正月
換気扇きし廻る空つ風
たけなはの鍋に白菜放り込み

竹内文夫

縁側で爪切る音や小六月
主亡き庭に柿みな赤らみて
鈍色のビルの谷間の夕紅葉
数へ日や読みさしの書の栞抜く
独り寝の床の温もり去年今年
三つ四つと子が積む石に六むつのはな花
高架下影は冬田に遠く伸び

塚本虚舟

太極拳に集ふ人の輪息白し
数へ日の三面記事の街の火事
讚美歌をうたふソリスト息白し
埋火や思ひ出したる妻の私語
A I にヒト亡ぼさる危俱や冬
加齢てふ劣化の証雪しこづる
湖のさざ波に春近きこゑ

北へ行く鉄路をかかす冬の靄
白梅を見上げる初仕事
気にかかると指の関節新年た
初鏡小さく使ひて眉を引く
皮手袋これは獣のどあたり
束の間の日差しにとべり冬の蝶
また同じ人に出逢へり紅葉山

中島和子

ひよどりの葉を散らしつつ木を渡る
翻へる小魚光る冬の川
冬夕日高層ビルを残りしをり
満天星を丸く刈り込む冬用意
屠蘇なしの酒で今年も年始め
初日の出手を打つ人の影長し
賽銭は箱に届かず初詣

時田義勝

贅由俊之

三回忌過ぎてなほ咲く亡父の菊
透ける葉の赤黄美し次郎柿
大北風に縦一列の競歩かな
鳥がため残せし柿ももう僅か
落ちてより達磨の如き花梨の実

貫井照子

筆立ててひたすら写経石露の花
銀杏の匂ふ境内通り雨
青石の紀州の庭に時雨きて
口切や低めに締める袋帯
冬銀河列車連続音響き
クリスマス記念切手のエアメール
冬桜門外不出浜納豆

カレンダー小脇にかかへゐる師走
ゆく年の醤油のほふ佃島
七福神幟の中を参拝す
初売りの商店街に越天楽
春着の子母の神籤を覗き見る
寒月を歪んで映す大正池
磴一段一段ごとくに落葉踏み

野口希代志

栩とち茸ふきの箱根関所や冬紅葉
何となく過ぎ行くひと日枇杷の花
廃屋をシートが囲み冬紅葉
毛布掛けまどろむ昼のテレビジョン
お日さまを窓に映して煤払ひ
平成の最後の屠蘇や空は青
冬温し後ろに伊豆の波のこゑ

萩原溪人

萩原久代

通行止めの立札に逢ふ十二月
寒波来るつねと変はらぬ夫の日課
年賀状年々減つてゐるやうな
お元日静もる町を通りけり
車での日静もる町を通りけり
福袋めざして並ぶ列に入る
留守番を犬に頼んでゆく年始

橋本美代

木の葉雨浴びつつ散歩四千歩
熊の手市手締め音の響きけり
艶々と樽柿の山大湯祭り
歳の市肝酒を出す鯉の店
年の暮れ巢鴨地藏を詣でけり
暮れの街喜捨する人を撫でる僧
成人の日の富士山のかがやいて

電柱に絡まる蔦の枯れにけり
刈りあげし頭に寒き空つ風
凍雲に隠れて富士の影のなく
子も孫も揃つて雑煮祝ひけり
熱々の雑炊眼鏡曇りけり
咳き込んで葉飲むひと寒の入
寒九の夜熱めの風呂に長湯する

濱野 新

日高みち子

いつせいに落ち葉蹴散らし子ら走る
合ひの手の上手い友居て忘年会
行く年のトランペットの響きかな
初空や職場へ向かふ道静か
靴の痛みを走る介護の夜
雪の夜のライトアップの五稜郭
盆栽の梅が咲いてるカウター

広瀬 濟

吊るし柿冬日を浴びて飴色に
小春日や窓ガラス拭く妻の留守
干し芋をほほばる妻は目を細め
古書街に探す囲碁の書暮れやすし
着膨れて世事に動ぜぬ気分なり
こはごはと初孫を抱く大旦
冬日和妻の歩幅で散歩する

本郷美代子

里山は車の前をイタチ行く
静かなる茶室の裏手冬紅葉
冬耕の終へたる向こう電車見ゆ
山枯れていよよ故里過疎となり
数の子を口にあれこれ思ふこと
昆布巻は自慢のひとつ節料理
大木の瘤は大きく冬の空

◇ 3月・4月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
3月	1日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	1日(金)	PM6:00	なごみ会	武蔵浦和コミセン	丑久保 勲
	5日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン4	瀬島 孟
	6日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	23日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	23日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	29日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
4月	1日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン1	丑久保 勲
	2日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	瀬島 孟
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン1	丑久保 勲
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	21日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	浜離宮	丑久保 勲
	27日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	27日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕 ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

3月のNHKは3月1日(金)と3月29日(金)の2回です。

4月21日(日)の吟行。集合は10時。集合場所は浜離宮正門前。

JR新橋駅・汐留口から地下を東に。電通ビルに突き当たったら地上に出る。
そこからすぐ。句会場は森下文化センター。地下鉄大江戸線で移動。

◎連絡先 瀬島 孟 ☎ 048-862-2757 藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
大島英昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856